日本キャンプ協会55周年
都道府県キャンプ協会交流企画

こども食堂の子どもたちに
キャンプ体験を！

2525（にこにこ）こどもキャンプ
実施報告

大阪府キャンプ協会

背　景

2015年　世界　持続可能な開発目標（SDGｓ）

１番目が**「貧困の解決」**

日本　**子どもの貧困**　→　**社会問題化**

６人に１人　　母子家庭では**２人に１人**

「子ども食堂」が急増

全国に**２０００**以上

大阪府内に　**２００**以上

（大阪市は早くから予算化）

企画の意図

「子ども食堂」の子ども　→皆ができていることができていない

貧困　→　海や山へ連れて行ってもらったことがない

共稼ぎ・ひとり親　→　孤食、コミュニケーション不足

自然体験

体験の貧困

協働体験

↓

キャンプで様々な体験をしてほしい！！

キャンプ協会は？

日本キャンプ協会　ビジョン2020

「社会の隅々までキャンプを届けよう！」

2017年度　大阪府キャンプ協会 25周年

組織キャンプは約150年前から**「社会課題の解決」**のためのキャンプを実施してきた。

多団体が共にキャンプを企画・運営することで刺激を受け、結びつきを強化し、新たなものを生み出したい。

課題①　経費は？

貧困家庭の子ども　→　無料で招待したい！

実施まで半年　→　助成金など申請の時間がない

- ２５周年　事業特別積立金（20万円）
- 団体会員に協賛・協力（ｽﾀｯﾌ派遣）の呼びかけ
- 25周年記念昼食会にて理事から寄付
- 企業・一般会員への呼びかけ　　計478,000円

多くの人に呼びかけることで「意識を共有」

課題②　募集方法は？

「子ども食堂」を利用している各家庭への声掛け　→　難しい

石田副会長が、2016年に**子ども食堂のネットワーク組織**「大阪市地域こども支援団体連絡会」の立ち上げ、大阪市平野区「みんな食堂ネットワーク拠点事業」に携わり、子ども食堂や居場所づくりに関わっている団体をつなぐ活動をしていた。

「子ども食堂」単位での募集と応募

「大阪市地域こども支援団体連絡協議会」で**募集チラシを配布**→３団体から反応あり

68の登録団体（大阪市内・一部府内）に**メールで募集**

↓

府内 **６か所の子ども食堂から33名**（小学１年～中１、きょうだい含む）

課題③　スタッフは？

大阪府CAは、独自でのキャンプ事業は行わず、セミナーやキャンプミーティングなどの連携事業を実施しているので、一緒にキャンプをする機会は少ない。

- **ディレクター・スタッフ　→　専門委員（５名）・施設職員**
- **リーダー　→　３つの団体からの大学生リーダー（４名）**

  専門委員が運営するNPOの学生など（６名）

うち４名は、子ども食堂でボランティアをしてる大学生

→　**キャンプリーダーとしては経験不足**

専門委員・リーダーは**「子ども食堂」について知識不足**

事前研修、顔合わせ・説明会

① 社会福祉を専門とする石田副会長（当時：桃山学院大学副学長）のお話

「子ども食堂とキャンプ～物質の貧困より体験の貧困、愛情の貧困を考える～」

体験の貧困　→　問題解決能力・人間関係づくりなど、様々な影響

しかし、**「子どもは子ども、偏見はなしに！」**

②「母子生活支援施設」退所後の子どもたちのケアをしている方のお話

６割が夫のDV。施設退所後に一気に生活が崩れる。アフターケアとして学習支援・食事提供。不登校が多く体験不足。外に出る意欲がなく、ゲームをしている子が多い。

顔合わせ・説明会　専門委員が**６つの子ども食堂に出向き、**子どもや保護者、運営者と**顔合わせして説明**。双方とも**安心感**を得られた。

企画の概要

- 日　時　**2018（平成30）年３月10（土）～11日（日）**
- 場　所　**大阪府立青少年海洋センター**（大阪府岬町）
- 主　催：大阪府キャンプ協会
- 協　力：大阪市地域こども支援団体連絡協議会　他
- 協　賛：大阪府キャンプ協会会員（団体・個人）、ミズノ（株）、他
- 運　営：２５２５こどもキャンプ実行委員会

  大阪府キャンプ協会 専門委員・大学生リーダー・事務局
- 対　象：大阪府内の「子ども食堂」に通う子ども（小１～中１年）
- 参加費：無料（難波までの交通費のみ自費）

プログラム

男子２班・女子４班、子ども食堂はバラバラに、きょうだいは同班に

１日目

難波駅集合

入所式
アイスブレイク（砂浜で）

昼食（センター給食）

磯観察（タイドプール）

センター帰所

野外炊さん（鶏の丸焼き）

キャンプファイヤー

入浴・就寝

２日目

朝のつどい
朝食（センター給食）

クラフト　＜塩づくり＞

クルーザー（はくちょう）　前半
クラフト　＜シェルメモリー＞
クルーザー（はくちょう）　後半
クラフト　＜シェルメモリー＞

昼食（センター給食）

退所

難波駅　解散

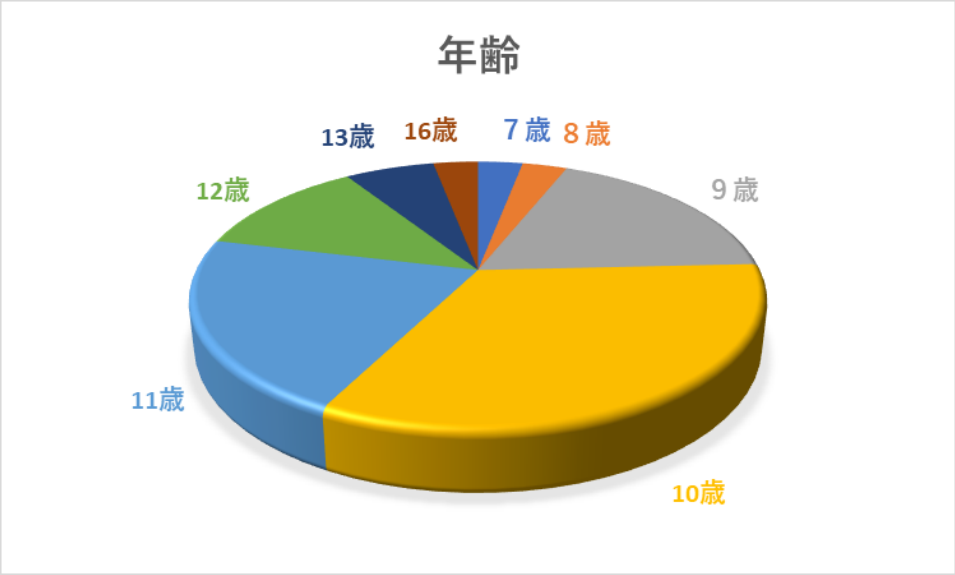
はくちょう

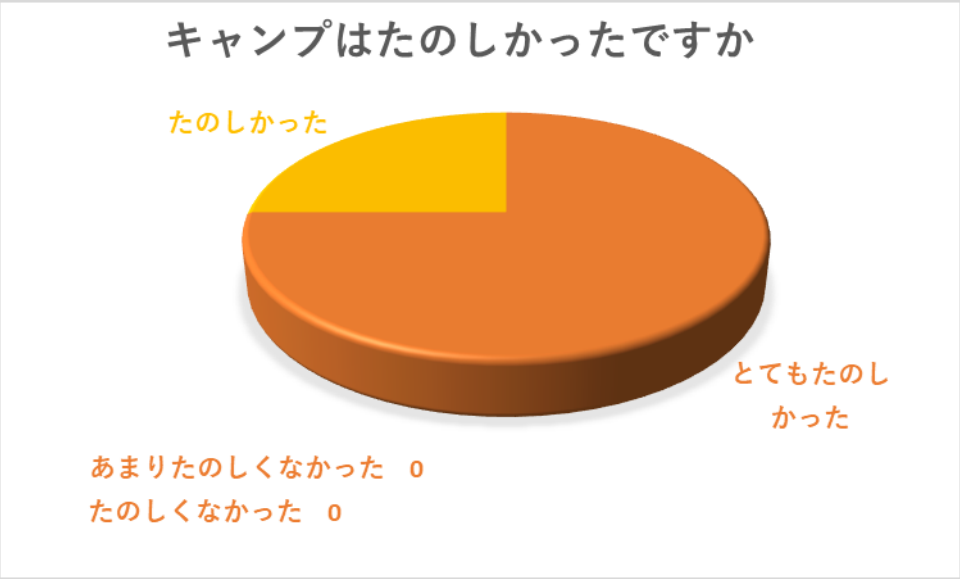
子どもの様子

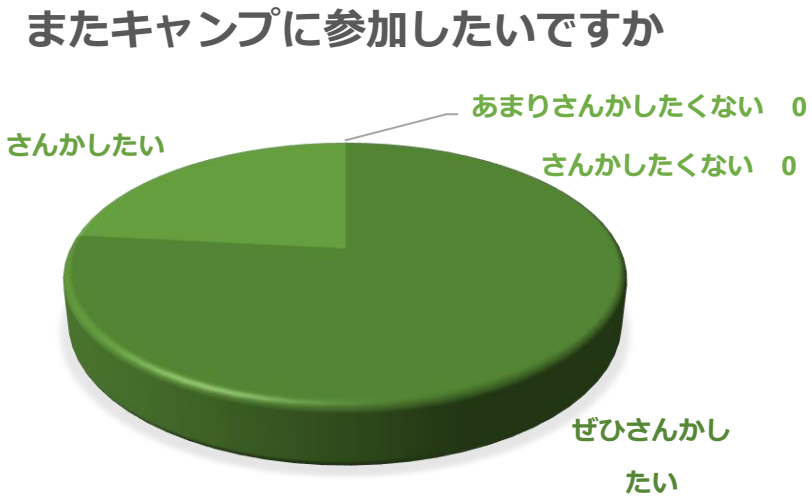
- **はじめは不安そう**だったが、すぐに**友達も作り、素直に心から楽しんで**いる。
- 他の子のことを考える協調性のある子どもが多い。
- ストレートな物言いをするなど気の強い子が多く、リーダーに反発する子どもも。自分をしっかり持ち、**自己主張**できる。
- リーダーに**甘えたり、抱っこやおんぶを求めてくる**子が多い。帰り際**「帰りたくない、もっと遊びたい」と泣いてしまい**、なかなか帰らない子も。
- ３３名のうち**６名が海を見たのは初めて**。ウニなどの海の生き物、クルーズ、鶏の丸焼きなどなど、すべてが初めて、という子どもが多い。
- 「**歯磨き粉を使ったことがない。家にない**」という子どももいた。

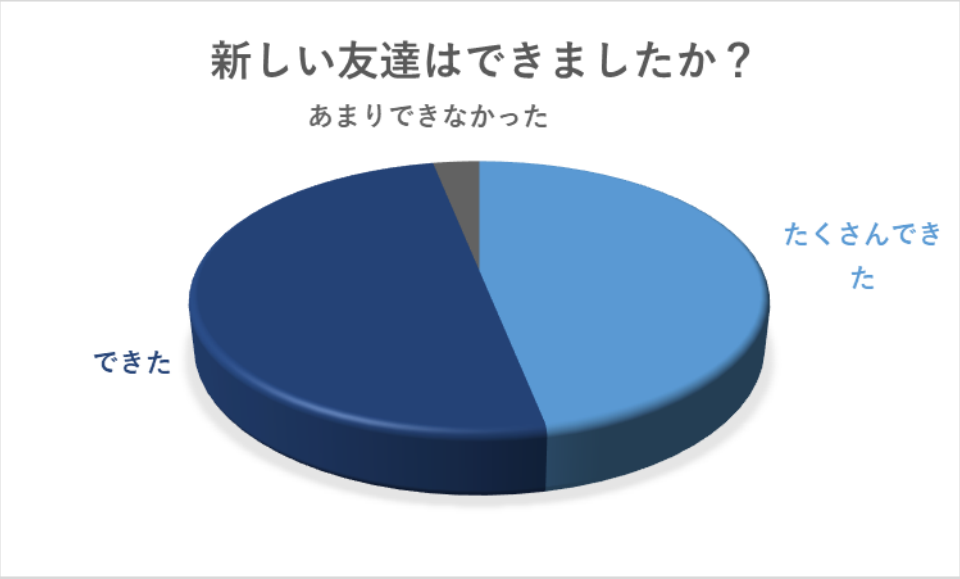
→　**家庭環境の違いが大きいが、みんなとても楽しんでいる！**

アンケート結果　（子どもの声①）







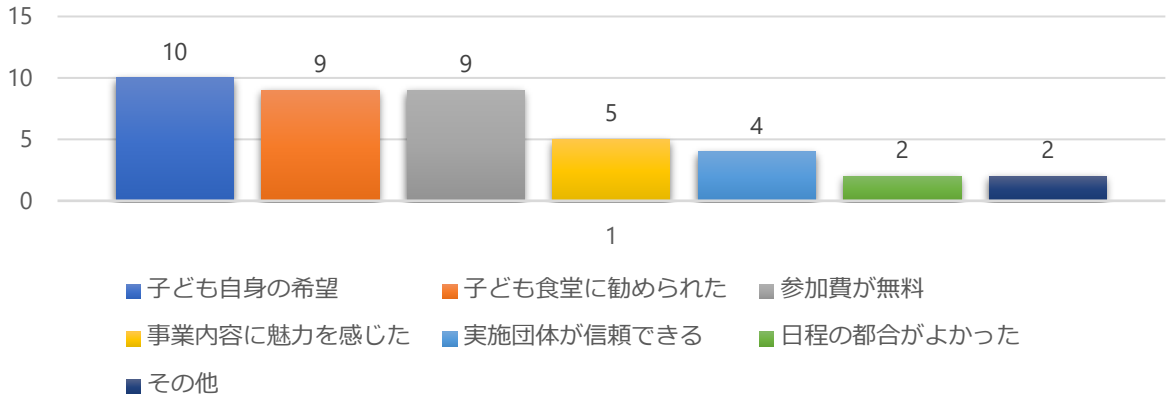


アンケート結果（子どもの声②）

- クラゲやウニなどの**生き物を初めて見たり採ったり**した！（12）
- **クルーザーに初めて乗って**、楽しかった！　（11）
- **塩を初めて**つくって面白かった！
- **鶏の丸焼き**がとても面白かった！
- **友だちができた！！**
- 食事がすべておいしかった！
- また参加したい！
- もっと班のみんなと話がしたかった！

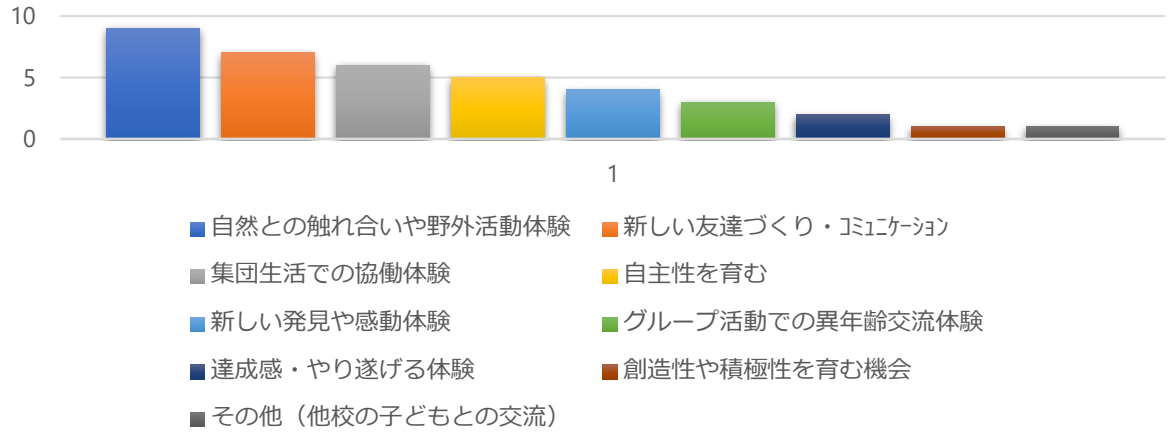
アンケート結果（保護者の声①）

参加理由（複数回答可）

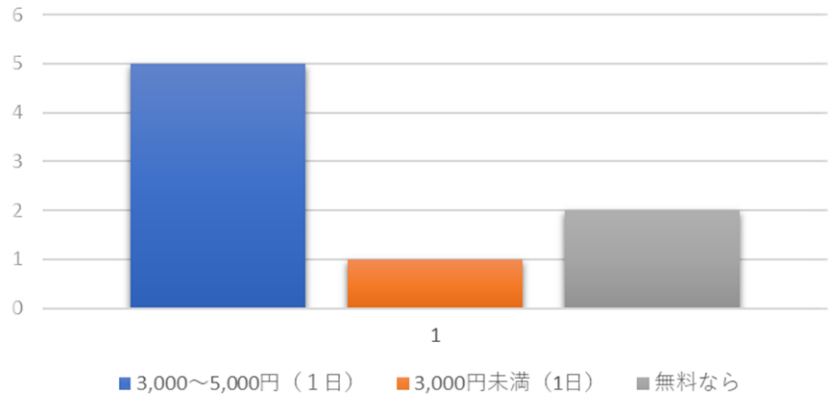


参加後の子どもの変化

キャンプに期待したこと（複数可）



参加させたい参加費は？



アンケート結果（保護者の声②）

●感想（自由記述）

- 子どもの笑顔を見て感謝の気持ちでいっぱい！ぜひまた参加させたい！！
- 反抗期の子どもと楽しく会話ができた。
- 子ども食堂からの参加だが、子どもの心は貧困でなく豊か。ただ、親には時間と金がない。「無料」「海」で不安に。子どもたちと前もって調べ学習や計画について話せたら、もっと良かった。
- せっかくできた友だちとその時限りになるのが残念。
- このような企画を数多く実施し、活動の有効性を広げてほしい。

アンケート結果（子ども食堂の声）

●**事前にスタッフの研修**があり、孤食や体験の貧困など、**支援のねらいを共有**していた。事前の**訪問等で信頼**することができた。

●**不登校や対人関係に悩んでいる子たち**が、**「知らない子と仲良くなれるか不安だったけど、すぐに仲良くなれた」**「また行きたい」との感想を書いていた。**自信や日常への活力、自尊感情を高める**ことにつながったと感じた。

●**最高の経験**をさせてもらった。子ども食堂は**食事を与えるのではなく、「みんなでいっしょに美味しいご飯を食べる」**ところ。子どもたちに、**たくさんの大人が見てくれている、考えてくれている**と感じてほしい。この経験が**子どもたちの生きる力、最後に踏ん張れる力**になってほしい。

評価

●子どもたちがリーダーや仲間と共にたくさんの楽しい体験をしたことで、

人と関わることや自分自身に自信を持つことができた。

●スタッフやリーダーが、社会課題について学び、考え、経験することで、

意識が変化し、キャンプが社会に役立つことが再認識できた。

●多団体が協働で実施したことで、

大阪府キャンプ協会の新たな道筋につながった。

2018年6月に報告会を開き、報告書を発行　→

希望される方は、大阪府キャンプ協会へ

2525こどもキャンプ、その後

- 第2回は、2018年8月（1泊2日）　豊中市立青少年自然の家で

第１回の協力団体「平野みんな食堂ネットワーク」が実施。継続して関わることが重要と考え、第1回の参加者に声をかけ７名が継続参加、新規は16名。その後も**毎年1～２回、　１～２泊で実施。**

- 財源は、公的助成金（国・地域など）、企業（電通など）と

  参加費（3,000～5,000円程度）、大阪府キャンプ協会協賛金など

継続の成果

- **関わる人が増え、広がり、地域が活発になってきた。**
- **継続参加している子どもが自立、生きる力が身についた。**
- **学生リーダーにも大きな成長がみられる。**

今後への課題

社会課題解決のキャンプの実践、調査・研究

↓

社会課題を抱える子どもに対するキャンプの有効性を実証、

外部に発信し、協力者や実践者を増やす

↓

キャンプの価値が社会に浸透

継続実施できる仕組みの確立

2525 にこにこ こどもキャンプ

子どもたちの笑顔のために
キャンプを広げましょう！